

201119004A

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発
とその計測システムの確立に関する研究

平成 23 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 祖父江 友孝

平成 24 (2012) 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発
とその計測システムの確立に関する研究

平成 23 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 祖父江 友孝

平成 24 (2012) 年 3 月

目次

I. 総括研究報告	2
医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	3
研究代表者 祖父江友孝 大阪大学医学系研究科社会環境医学講座環境医学教室 教授	
II. 分担研究報告	19
乳癌における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	20
研究分担者 向井博文 国立がんセンター東病院 乳腺科・血液化学療法科 医長	
肝癌における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	24
研究分担者 國土 典宏 東京大学大学院医学系研究科 肝胆膵外科 教授	
研究協力者 長谷川 潔 東京大学大学院医学系研究科 肝胆膵外科 准教授	
大腸癌における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	31
研究分担者 杉原健一 東京医科歯科大学大学院 腫瘍外科学 教授	
研究協力者 石黒めぐみ 東京医科歯科大学大学院 腫瘍外科学 助教	
胃癌における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	37
研究分担者 島田安博 国立がんセンター中央病院 消化管内科 科長	
肺癌における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	42
研究分担者 浅村尚生 国立がん研究センター中央病院呼吸器腫瘍科呼吸器外科 科長	
大学病院における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	46
研究分担者 目片 英治 滋賀医科大学腫瘍センター 講師	
研究協力者 太田 悦子 滋賀医科大学医療サービス課 診療情報管理士	
都道府県がん診療連携拠点病院における診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	53
研究分担者 大谷幹伸 茨城県立中央病院茨城県地域がんセンター がんセンター長	
研究協力者 須能まゆみ 茨城県立中央病院 城県地域がんセンター診療情報管理室	
評価指標群およびオリジナル院内がん登録票等電子カルテに向けた準備への取組み	55
研究分担者 東出 俊一 市立長浜病院 外科 部長	
研究協力者 堀江 智美 市立長浜病院 医事課 診療情報管理士	
がん患者の診療の質に関する情報ニーズに関する研究	60
研究分担者 祖父江友孝 大阪大学医学系研究科社会環境医学講座環境医学教室 教授	
研究分担者 東 尚弘 東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学／健康医療政策学 准教授	
III 研究成果の刊行物に関する一覧表	68

I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総括研究報告書

医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究

研究代表者 祖父江友孝 大阪大学医学系研究科社会環境医学講座環境医学教室 教授

研究要旨

本研究では、5大がん（乳・胃・肺・大腸・肝）について、がん医療水準均てん化の達成度を測定するために、診療内容・過程を評価する「診療の質指標」（QI: Quality Indicator）を開発し、さらに測定にかかる作業負担の軽減のため、パイロット測定をもとに再度専門家パネルにより優先順位付けを行ってきた。本年度は「優先版セット」として選定された各がんに対する10項目程度のQIを再度パイロット施設において測定し、作業負担の程度を再検証すると共に、今後のシステム確立に向け、QIの報告における標準的な方式のホームページ上の提示を行った。また、厚生労働省統計における5がん患者の病院選択における情報ニーズを検証し、患者への情報提供の必要性を検証した。

研究分担者氏名・所属機関名・職名

祖父江友孝 大阪大学大学院 教授
向井博文 国立がん研究センター東病院医長
国土典宏 東京大学大学院 教授
杉原健一 東京医科歯科大学大学院 教授
島田安博 国立がん研究センター
中央病院 科長
浅村尚生 国立がん研究センター
中央病院 科長
大谷幹伸 茨城県立中央病院 部長
目片英治 滋賀医科大学病院 講師
東出俊一 市立長浜病院 部長
東尚弘 東京大学大学院 准教授

がんについて標準診療を同定しその実施率によって質を測定する指標（Quality Indicator、以下QIとする）の開発・パイロット測定を行ってきた。当初は広範な診療内容をカバーすることを主眼として診療録を元としたデータ収集を行ってきたが、作業負担の軽減が必要であることから最初に収集したデータを基に臨床専門家パネルによるQIの優先順位付けを行い、これまで優先度の順位の高い方から胃11項目、大腸13項目、乳腺10項目、肝臓6項目、肺10項目が抽出された、本年度はこれらを順次診療録採録による測定を行い、その作業過程の整理を行うとともに、今後各施設が自主的にQIを測定して報告する場合を想定してその結果の報告方法のあるべき姿を検討し例を作成、また、評価結果の患者情報提供について検討する資料としてがん患者の情報ニーズの検討を行った。

A. 研究目的

がん対策の一つの柱である「がん医療の均てん化」を進めるには、その進捗管理のために均てん化の度合いを測定する診療の質指標を策定し計測システムを確立することが重要である。本研究においては、これまで5つの主要臓器（胃・大腸・肺・乳腺・肝臓）の

B. 研究方法

本年度の活動は、(1)優先版QIの測定、(2)結果報告の検討(3)政府統計における患者調査、受療行動調査の2次利用によるがん患者の「情報ニーズ」の中で診療の質がどの

ような位置づけを占めるのかについて検討を行った。

(1) 優先版 QI の測定

研究分担者の3施設および研究協力施設(総計、都道府県がん診療連携拠点病院(2施設)、地域がん診療連携拠点病院(7施設)、がん診療連携拠点病院に準ずる施設(1施設))において、昨年度に引き続き胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌に関して施設あたり100例を上限として、院内がん登録実務者による採録を行った。対象症例は2009年診断症例を院内がん登録から抽出し、症例が100例を超える場合には乱数によりランダムサンプルを行った。

全QIを使って測定した時と同様、5がんの優先QIそれぞれについて、ファイルメーカーProにより入力フォームを作成し、データの一貫性を検証しながら入力を誘導するシステムを作成した。実際の採録については、がん登録の実務者が中心となって行うこととした。入力が終了した後に研究班の医師が各施設を訪問してデータの正確性についての確認を行うとともに、実務者にとって入力しづらい項目の同定を行った。データの正確性の検討は二つの方法を用いて行った。一つ目の方法は、各臓器につき各施設で10例のサンプリングを行い、医師による採録の結果とスコアの一致度を検討した。二つ目の方法として、QIが実施されていない症例についてのみ、研究班の医師が確認を行った。

(2) 結果の報告方法の検討

平成21年度、平成22年度に収集したQIの測定結果をもとに、各施設へフィードバックを行うためのWebページの作成を行った。米国のNational Cancer Data Baseで行われているWebを用いたQI測定結果のフィードバックシステムは、自施設と匿名化された他施設のスコアの比較がグラフで視覚的に比較可能となっており、本研究班でも同様のフィードバックシステムの構築を目標とした。また、自主的に測定・結果を公表する際に押さえるべきポイントなどを検討した。

(3) 受療行動調査の2次利用によるがん患者情報ニーズ

厚生労働省の所管する統計である、患者調査、受療行動調査を突合したファイルの2次利用を申請し、がん患者の情報ニーズを記述すると共に患者全体と比較した。受療行動調査は全国の病院から抽出した施設における、特定の1日の患者に対して質問紙調査を行うものであり、サンプル方法から全国の患者への投影するために重み付けをするために乗数が算出されている。本解析においては、病名コードから今回診療の質の計測の対象としている5がんの患者の情報ニーズを、患者全体と比較して記述することで、その特徴を明らかにした。

(倫理面への配慮)

採録作業については個人情報の保護に最新の注意を払い、すべて解析段階で匿名化して管理している。診療情報収集に関する一連のプロトコルについては国立がん研究センター倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

(1) 優先版 QI の測定

それぞれの結果の詳細は、各分担報告書にゆずる。本総括報告書においては全体の概要を述べる。優先版QIでは、計1935人のデータの収集を行った。採録者への聞き取りでは、一件当たりのデータ収集時間は20～30分であった。胃癌、大腸癌においては、研究班の医師によるデータの正確性の検討が完了した。サンプリングした症例の医師による採録結果と、採録者による採録の結果では、胃癌で85%が一致し、大腸癌では84%が一致した。QIに記載された標準診療が実施されていない症例について、研究班の医師が確認を行ったところ、内視鏡所見、病理所見において一部でデータの収集ができていなかったことが判明した。特に所見が完全に英文で記載されていることがあり、その場合に正確に採録することが著しく困難であると伺えた。

(2) 結果の報告方法の検討

Web フィードバックシステムでは、図に示すようなページを作成した。また、自主的な測定を施設などで行った場合の例示を作成して、研究班ホームページ上に「QI の測定結果の公表にあたってのお願い」として掲示した。そこでは、QI の概念の説明を行うこと、計算方法を明確化すること、また例外事例に対する配慮した数などは分けて算出することなどが盛り込まれた。

(3) 受療行動調査の2次利用によるがん患者情報ニーズ

受療行動調査を用いた情報ニーズの検討では、平成14年～20年の経時できにも全患者および5がん患者ともに一貫して「医師の専門分野・経歴」に関する情報ニーズが入院・外来患者共に一貫して高かった。平成20年において始めて「生存率などの治療結果」といった診療の質についての情報の必要性について問う設問が追加され、これ自体の「必要と思った」との回答率は他の比べて取り立てて高くはないものの、他の5がん患者と全疾患の患者を比較した時に、およそ入院患者で10.8%、外来患者で11.9%の差をもって5がん患者で高く、その差は他の項目と比較して最大であった。

D. 考察

優先版 QI を用いた測定では、以前の測定と比較して大幅な時間短縮が可能であったが、依然として一例あたりには最低でも20分はかかっていた。入力されたデータの正確性に関しては、サンプリングした症例で研究班の医師が採録したデータと QI の実施の有無を比較したところ、高い一致率が認められた。一方で、QI 実施のされていない症例にのみ医師による確認を行ったところ、内視鏡所見や病理所見が英語で記載されているなどの場合に、データ収集が不正確になってしまうことが判明した。一般に採録者のデータ収集の精度は高いと考えられたが、診療録の記

載の有無を確認する QI では、医師が英語で記載を行う場合も多く、正確な採録を期するためには採録者には日本語の専門用語だけではなく英語の専門用語の教育が必要である。今後の方向性としては、採録に費やされる労力に鑑みると、治療の有無に関する QI を中心として、DPC やレセプトデータで一次的に実施の有無を同定し、標準の実施が無い例に対し診療録から理由を検討する方法を試していく価値があると考えられる。そうすることで、病名などの正確性が疑問視されることのある、詳細な臨床背景が不明料であるとの問題がある DPC/レセプトであるが有効に活用しつつ臨床的な妥当性を確保することが可能になると考えられる。

このようにして測定する対象施設を増加させると共にフィードバックをして行くことでがん診療の均てん化を目指していくことがのぞましいし、バランスのとれた報告方法を標準化することで、問題なく5がん患者へのニーズの高い情報の提供も可能になるかもしれない。

E. 結論

優先版 QI の測定では、前年度、前々年度の測定と比較して労力の軽減が図られ、データの一貫度は高かった。今後は既存のデータの正確性を検証しつつ、有効活用する仕組みを確立し計測の参加施設を拡大していくことが望まれる。参加施設に対しては、Web システムを通じて QI 測定の結果を視覚的にフィードバックすることで、データを検討しやすくなり改善がより促進されることが考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 書籍 (杉原健一)

1. 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一 大腸癌に対する術後補助化学療法の考え方 瀧内比呂也 企画 羊土社 うまく続ける消化管がん化学療法 2011 ; 143-148 東京
2. 植竹宏之、杉原健一 大腸癌の術後補助化学療法 大村健二、瀧内比呂也編 南山堂 消化器癌化学療法 改訂3版 2011 ; 262-266 東京

(目片 英治)

1. 目片英治 私たちのレジメン 2011-2012 未来医療推進支援ネットワーク出版 P13-49 2011

2. 論文発表

(祖父江友孝)

1. Higashi T, Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, Izumi N, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Sakamoto M, Nakashima O, Matsui O, Matsuyama Y, Sobue T; the Liver Cancer Study Group of Japan. Demonstration of quality of care measurement using the Japanese liver cancer registry. *Hepatol Res.* 2011 Oct 7. Epub
2. 東尚弘, 中村文明, 祖父江友孝: がん診療における Quality Indicator. *医薬ジャーナル* 47(9): 89-92, 2011
3. Matsuda T, Marugame T, Kamo K, Katanoda K, Ajiki W, Sobue T; Japan Cancer Surveillance Research Group. Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2005: based on data from 12 population-based cancer registries in the Monitoring of Cancer Incidence

in Japan (MCIJ) project. *Jpn J Clin Oncol.* 2011;41(1):139-47.

4. Matsuda T, Ajiki W, Marugame T, Ioka A, Tsukuma H, Sobue T; Research Group of Population-Based Cancer Registries of Japan. Population-based survival of cancer patients diagnosed between 1993 and 1999 in Japan: a chronological and international comparative study. *Jpn J Clin Oncol.* 2011;41(1):40-51.
5. Ikeda N, Saito E, Kondo N, Inoue M, Ikeda S, Satoh T, Wada K, Stickley A, Katanoda K, Mizoue T, Noda M, Iso H, Fujino Y, Sobue T, Tsugane S, Naghavi M, Ezzati M, Shibuya K. What has made the population of Japan healthy? *Lancet.* 2011 17;378(9796): 1094-105
6. 祖父江友孝. がん登録の進歩. *腫瘍内科* 2011; 7(1); 56-61.

(向井博文)

1. Matsubara N, Mukai H, Itoh K, Nagai S. Prognostic Impact of Ki-67 Overexpression in Subgroups Categorized according to St. Gallen with Early Stage Breast Cancer. *Oncology.* 2011; 81(5-6):345-52.
2. Araki K, Kitagawa K, Mukai H, Mukohara T, Kodama K, Ando Y, Narabayashi M, Minami H, Mera K, Sasaki Y. First clinical pharmacokinetic dose-escalation study of sagopilone, a novel, fully synthetic epothilone, in Japanese patients with refractory solid tumors. *Invest New Drugs.* 2011 Dec 4. [Epub ahead of print]

3. Matsubara N, Itoh K, Mukai H, Nagai S. Long-term outcome of pleurodesis with OK-432 in metastatic breast cancer: a new risk model for success from an analysis of 75 cases. *Int J Clin Oncol*. 2011 Oct 7. [Epub ahead of print]
 4. Mukohara T, Nagai S, Mukai H, Namiki M, Minami H. Eribulin mesylate in patients with refractory cancers: a Phase I study. *Invest New Drugs*. 2011 Sep 2. [Epub ahead of print]
 5. Sawaki M, Mukai H, Tokudome N, Nakayama T, Taira N, Mizuno T, Yamamoto Y, Horio A, Watanabe T, Uemura Y, Ohashi Y. Safety of adjuvant trastuzumab for HER-2-overexpressing elderly breast cancer patients: a multicenter cohort study. *Breast Cancer*. 2011 Apr 28. [Epub ahead of print]
 6. Yamauchi C, Fujii S, Kimura T, Kuwata T, Wada N, Mukai H, Matsumoto N, Fukayama M, Ochiai A. E-cadherin expression on human carcinoma cell affects trastuzumab-mediated antibody-dependent cellular cytotoxicity through killer cell lectin-like receptor G1 on natural killer cells. *Int J Cancer*. 2011 May ;128(9):2125-37.
 7. Ohsumi S, Shimozuma K, Ohashi Y, Shinji M, Hozumi Y, Mukai H, Takatsuka Y, Aihara T. Health-related quality of life and psychological distress of breast cancer patients after surgery during a phase III randomized trial comparing continuation of tamoxifen with switching to anastrozole after adjuvant tamoxifen for 1-4 years: N-SAS BC 03. *Breast Cancer Res Treat*. 2011 May;127(1):143-52.
 8. Tahara M, Minami H, Kawashima M, Kawada K, Mukai H, Sakuraba M, Matsuura K, Ogino T, Hayashi R, Ohtsu A. Phase I trial of chemoradiotherapy with the combination of S-1 plus cisplatin for patients with unresectable locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Cancer Sci*. 2011 Feb;102(2):419-24.
- (國土典宏)
1. Takayasu K, Arii S, Kudo M, Ichida T, Matsui O, Izumi N, Matsuyama Y, Sakamoto M, Nakashima O, Ku Y, Kokudo N, Makuuchi M. Superselective transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma. Validation of treatment algorithm proposed by Japanese guidelines. *J Hepatol*. 2011 Dec 13.
 2. Higashi T, Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, Izumi N, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Sakamoto M, Nakashima O, Matsui O, Matsuyama Y, and Sobue T, for the Liver Cancer Study Group of Japan. Demonstration of quality of care measurement using the Japanese Liver Cancer Registry. *Hepatol Res* 2011; 41: 1208-1215

3. Arita J, Takahashi M, Hata S, Shindoh J, Beck Y, Sugawara Y, Hasegawa K, Kokudo N. Usefulness of contrast-enhanced intraoperative ultrasound using Sonazoid in patients with hepatocellular carcinoma. *Ann Surg*. 2011 Dec;254(6):992-9.
4. Hata S, Imamura H, Aoki T, Hashimoto T, Akahane M, Hasegawa K, Bekku Y, Sugawara Y, Makuuchi M, Kokudo N. Value of visual inspection, bimanual palpation, and intraoperative ultrasonography during hepatic resection for liver metastases of colorectal carcinoma. *World J Surg*. 2011 Dec;35(12):2779-87.
5. Watanabe T, Itabashi M, Shimada Y, Tanaka S, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Hyodo I, Igarashi M, Ishida H, Ishiguro M, Kanemitsu Y, Kokudo N, Muro K, Ochiai A, Oguchi M, Ohkura Y, Saito Y, Sakai Y, Ueno H, Yoshino T, Fujimori T, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Takahashi K, Takiuchi H, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yoshida M, Yamaguchi N, Kotake K, Sugihara K; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2010 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2011 Oct 15.
6. Waki K, Sugawara Y, Tamura S, Mieno MN, Yamashiki N, Kadowaki T, Kokudo N. Outcome of liver transplantation for recipients with hepatitis B and hepatitis C virus coinfection: analysis of the UNOS data. *Transplantation*. 2011 Oct 15;92(7):809-14.
7. Kishi Y, Saiura A, Yamamoto J, Koga R, Seki M, Morimura R, Yoshioka R, Kokudo N, Yamaguchi T. Repeat treatment for recurrent hepatocellular carcinoma: is it validated? *Langenbecks Arch Surg*. 2011 Oct;396(7):1093-100.
8. Ishizawa T, Kaneko J, Inoue Y, Takemura N, Seyama Y, Aoki T, Beck Y, Sugawara Y, Hasegawa K, Harada N, Ijichi M, Kusaka K, Shibasaki M, Bandai Y, Kokudo N. Application of fluorescent cholangiography to single-incision laparoscopic cholecystectomy. *Surg Endosc*. 2011 Aug;25(8):2631-6.
9. Tsukada K, Sugawara Y, Kaneko J, Tamura S, Tachikawa N, Morisawa Y, Okugawa S, Kikuchi Y, Oka S, Kimura S, Yatomi Y, Makuuchi M, Kokudo N, Koike K. Living donor liver transplantations in HIV- and hepatitis C virus-coinfected hemophiliacs: experience in a single center. *Transplantation*. 2011 Jun 15;91(11):1261-4.
10. Arita J, Hasegawa K, Takahashi M, Hata S, Shindoh J, Sugawara Y, Kokudo N. Correlation between contrast-enhanced intraoperative ultrasound using Sonazoid and histologic grade of resected hepatocellular carcinoma. *AJR Am J Roentgenol*. 2011 Jun;196(6):1314-21.
11. Kawaguchi Y, Ishizawa T, Masuda K, Sato S, Kaneko J, Aoki T, Beck Y,

- Sugawara Y, Hasegawa K, Kokudo N. Hepatobiliary surgery guided by a novel fluorescent imaging technique for visualizing hepatic arteries, bile ducts, and liver cancers on color images. *J Am Coll Surg*. 2011 Jun;212(6):e33-9.
12. Sugawara Y, Tamura S, Kaneko J, Iida T, Mihara M, Makuuchi M, Koshima I, Kokudo N. Single artery reconstruction in left liver transplantation. *Surgery*. 2011 Jun;149(6):841-5.
 13. Uchiyama K, Yamamoto M, Yamaue H, Ariizumi S, Aoki T, Kokudo N, Ebata T, Nagino M, Ohtsuka M, Miyazaki M, Tanaka E, Kondo S, Uenishi T, Kubo S, Yoshida H, Unno M, Imura S, Shimada M, Ueno M, Takada T. Impact of nodal involvement on surgical outcomes of intrahepatic cholangiocarcinoma: a multicenter analysis by the Study Group for Hepatic Surgery of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2011 May;18(3):443-52.
 14. Togashi J, Sugawara Y, Tamura S, Yamashiki N, Kaneko J, Aoki T, Hasegawa K, Beck Y, Makuuchi M, Kokudo N. Donor quality of life after living donor liver transplantation: a prospective study. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2011 Mar;18(2):263-7.
 15. Sakata H, Tamura S, Sugawara Y, Kokudo N. Cost analysis of adult-adult living donor liver transplantation in Tokyo University Hospital. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*. 2011 Mar;18(2):184-9.
 16. Saiura A, Yamamoto J, Kokudo N, Koga R, Seki M, Hiki N, Yamada K, Natori T, Yamaguchi T. Intrahepatic cholangiocarcinoma: analysis of 44 consecutive resected cases including 5 cases with repeat resections. *Am J Surg*. 2011 Feb;201(2):203-8.
 17. Shindoh J, Hasegawa K, Kokudo N. Image of the month. Asymptomatic dilatation of the intrahepatic biliary tree due to thrombosed pericholedochal varices (portal biliopathy). *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2011 Feb;9(2):e14-5.
 18. Kudo M, Izumi N, Kokudo N, Matsui O, Sakamoto M, Nakashima O, Kojiro M, Makuuchi M; HCC Expert Panel of Japan Society of Hepatology. Management of hepatocellular carcinoma in Japan: Consensus-Based Clinical Practice Guidelines proposed by the Japan Society of Hepatology (JSH) 2010 updated version. *Dig Dis*. 2011;29(3):339-64.
 19. Kishi Y, Hasegawa K, Sugawara Y, Kokudo N. Hepatocellular carcinoma: current management and future development-improved outcomes with surgical resection. *Int J Hepatol*. 2011;2011:728103. Epub 2011 Jun 23.
 20. Tamura S, Sugawara Y, Kokudo N. Living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma: the Japanese experience. *Oncology*. 2011;81 Suppl 1:111-5.
 21. kiyoshi Hasegawa, Norihiro Kokudo. Evidence-Based Guidelines for Treatment of Hepatocellular

Carcinoma in Japan. Hepatocellular Carcinoma (Springer) 89-97

22. Kokudo N. The road cancer control. Drug Discoveries & Therapeutics 5(2):60 2011

(杉原健一)

1. Kobayashi H, Mochizuki H, Morita T, Kameoka S, Teramoto T, Kameoka S, Saito Y, Takahashi K, Hase K, Oya M, Maeda K, Hirai T, Kameyama M, Shirouzu K, Sugihara K Characteristics of recurrence after curative resection for T1 colorectal cancer: Japanese multicenter study J Gastroenterology 2011; 46: 203-211
2. Aoyagi H, Iida S, Uetake H, Ishikawa T, Takagi Y, Kobayashi H, Higuchi T, Yasuno M, Enomoto M, Sugihara K Effect of classification based on combination of mutation and methylation in colorectal cancer prognosis Oncology 2011; 25: 789-794
3. Kobayashi H, Enomoto M, Higuchi T, Uetake H, Iida S, Ishikawa T, Ishiguro M, Sugihara K Clinical significance of lymph node ratio and location of nodal involvement in patients with right colon cancer Digestive Surgery 2011; 28: 190-197
4. Oka S, Tanaka S, Kanao H, Ishikawa H, Watanabe T, Igarashi M, Saito Y, Ikematsu H, Kobayashi K, Inoue Y, Yahahi N, Tsuta S, Simizu S, Iishi H, Yamano H, Kudo S, Tsuruta O, Tamura S, Saito Y, Cho E, Fujii T, Sano Y, Nakamura H, Sugihara K, Muto T Mid-term prognosis after endoscopic resection for submucosal colorectal carcinoma: summary of a multicenter questionnaire survey conducted by the colorectal endoscopic resection standardization implementation working group in Japanese society for cancer of the colon and rectum Digestive Endoscopy 2011; 23: 190-194
5. Tsukamoto S, Ishikawa T, Iida S, Ishiguro M, Mogushi K, Mizushima H, Uetake H, Tanaka H, Sugihara K Clinical significance of osteoprotein expression in human colorectal cancer Clin Cancer Res 2011; 17(8): 2444-2450
6. Ueno H, Mochizuki H, Shirouzu K, Kusumi T, Yamada K, Ikegami M, Kawachi H, Kameoka S, Ohkura Y, Masaki T, Kushima R, Takahashi K, Ajioka Y, Hase K, Ochiai A, Wada R, Iwaya K, Nakamura T, Sugihara K Actual status of distribution and prognostic impact of extramural discontinuous cancer spread in colorectal cancer J Clin Oncol 2011; 29: 2550-2556
7. Shirouzu K, Akagi Y, Fujita S, Ueno H, Takii Y, Komori K, Ito M, T, Sugihara K, and Cooperative Investigators on behalf of the Study Group of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) on Clinical Significance of the Mesorectal Extension of Rectal Cancer Ann Surg 2011; 253: 704-710

8. Sato H, Maeda K, Sugihara K, Mochizuki H, Kotake K, Teramoto T, Kameoka S, Saito Y, Takahashi K, Hirai T, Ohue M, Shirouzu K, Sakai T, Watanabe T, Hirata K, Hatakeyama K High-risk stage II colon cancer after curative resection J Surg Oncol 2011; 104: 45-52
9. Kobayashi H, Mochizuki H, Kato T, Mori T, Kameoka S, Shirouzu K, Saito Y, Teramoto T, Watanabe M, Morita T, Hida J, Ueno M, Ono M, Yasuno M, Sugihara K, Study Group for Rectal Cancer Surgery of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Lymph node ratio is a powerful prognostic index in patients with stage III distal rectal cancer: a Japanese multicenter study Int J Colorectal Dis 2011; 26: 891-896
10. Miyaguchi K, Fukuoka Y, Mizushima H, Yasen M, Nemoto S, Ishikawa T, Uetake H, Tanaka S, Sugihara K, Arii S, Tanaka H Genome-wide integrative analysis revealed a correlation between lengths of copy number segments and corresponding gene expression profile. Biomedical Infomatics 2011; 7(6): 280-284
11. Hamada C, Sakamoto J, Satoh T, Sadahiro S, Mishima H, Sugihara K, Saji S, Tomita N Does 1 year adjuvant chemotherapy with oral 5-FUs in colon cancer reduce the peak of recurrence in 1 year and provide long-term OS benefit? Jpn J Clin Oncol 2011; 41: 299-302
12. 鈴木弘行、後藤満一、杉原健一 消化器外科データベースの構築と今後の課題 日本医師会雑誌 2011; 140(8): 1651-1663
13. 樋口哲郎、宮崎光史、小林宏寿、山内慎一、小野宏晃、加藤俊介、松山貴俊、石黒めぐみ、石川敏昭、飯田聡、植竹宏之、榎本雅之、杉原健一 膿瘍ドレナージ術を先行した腹壁膿瘍合併下行結腸癌の1例 癌と化学療法 2011; 38(12): 2313-2315
14. 山内慎一、植竹宏之、菊池章史、小野宏晃、松山貴俊、加藤俊介、石黒めぐみ、石川敏昭、小林宏寿、飯田聡、樋口哲郎、榎本雅之、杉原健一 肝動脈化学療法塞栓療法により長期生存が得られた大腸内分泌細胞癌肝転移の1例 癌と化学療法 2011; 38(12): 2271-2273
15. 小林宏寿、植竹宏之、樋口哲郎、榎本雅之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、加藤俊介、松山貴俊、小野宏晃、山内慎一、増田大機、杉原健一 大腸癌術後多発肝転移に対し化学療法施行後2回肝切除を施行した1例 癌と化学療法 2011; 38(12): 2301-2303
16. 菊池章史、山内慎一、小野宏晃、加藤俊介、石黒めぐみ、石川敏昭、小林宏寿、飯田聡、植竹宏之、樋口哲郎、榎本雅之、杉原健一 大腸内分泌癌多発肝転移による肝不全に肝動注が有効であった1例 癌と化学療法 2011; 38(12): 2268-2270
17. 加藤俊介、小林宏寿、飯田聡、樋口哲郎、榎本雅之、杉原健一 低位前方切除術 外科治療 2011; 104 (増刊) : 628-633

(島田安博)

1. Iwasa S, Nakajima TE, Nakamura K, Takashima A, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y. Systemic chemotherapy for peritoneal disseminated gastric cancer with inadequate oral intake: a retrospective study. *Int J Clin Oncol* 16(1): 57-62, 2011
2. Iwasa S, Yamada Y, Fukagawa T, Nakajima T.E, Kato K, Hamaguchi T, Morita S, Saka M, Katai H, Shimada Y. Management of adjuvant S-1 therapy after curative resection of gastric cancer: dose reduction and treatment schedule modification. *Gastric Cancer* 14(1): 28-34, 2011
3. Okita N.T, Kato K, Takahari D, Hirashima Y, Nakajima T.E, Matsubara J, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y, Taniguchi H, Shirao K. Neuroendocrine tumors of the stomach: chemotherapy with cisplatin plus irinotecan is effective for gastric poorly-differentiated neuroendocrine carcinoma. *Gastric Cancer* 14(2): 161-165, 2011
4. Tanai C, Nakajima T.E, Nagashima K, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Muro K, Shirao K, Kunitoh H, Matsumura Y, Yamamoto S, Shimada Y. Characteristics and outcomes of patients with advanced gastric cancer who declined to participate in a randomized clinical chemotherapy trial. *J Oncol Pract* 7(3): 148-153, 2011
5. Iwasa S, Nakajima T.E, Nakamura K, Takashima A, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y. First-line fluorouracil-based chemotherapy for patients with severe peritoneal disseminated gastric cancer. *Gastric Cancer* [Epub ahead of print] 2011 May 15
6. Kato K, Chin K, Yoshikawa T, Yamaguchi K, Tsuji Y, Esaki T, Sakai K, Kimura M, Hamaguchi T, Shimada Y, Matsumura Y, Ikeda R. Phase II study of NK105, a paclitaxel-incorporating micellar nanoparticle, for previously treated advanced or recurrent gastric cancer. *Invest New Drugs* [Epub ahead of print] 2011 Jul 5
7. Sato T, Yamada Y, Muro K, Hayashi H, Shimada Y, Takahari D, Taku K, Nakajima TE, Shi X, Brown KH, Boku N. Phase I study of cediranib in combination with cisplatin plus fluoropyrimidine (S-1 or capecitabine) in Japanese patients with previously untreated advanced gastric cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* [Epub ahead of print] 2011 Aug 19
8. 島田安博 胃がん化学療法の新展開 日本消化器病学会雑誌 第108巻 第9号 1521-1527, 2011
(浅村尚生)
 1. 東尚弘, 浅村尚生 肺癌登録と Quality Indicator. *肺癌* 2012;52:72-76
 2. Hosaka M, Asamura H, et al. Proteomic study of malignant pleural mesothelioma by laser microdissection and two-dimensional difference gel electrophoresis identified cathepsin D

- as a novel candidate for a differential diagnosis biomarker. *J Proteomics*. 2012;75(3):833-44
3. Tsuta K, Asamura H, et al. c-MET/Phospho-MET Protein Expression and MET Gene Copy Number in Non-small Cell Lung Carcinomas. *J Thorac Oncol*. 2012;7(2):331-39
 4. Zielinski M, Asamura H, et al. Lobectomy in combination with radical lymphadenectomy is the most frequent surgical intervention performed in patients randomized in magrit trial evaluating MAGE-A3 antigen-specific cancer immunotherapeutic (ASC1) as adjuvant treatment in stage I B-III A NSCLC. *Lung Cancer*.2011;71:S37-S39
 5. Wei, S, Asamura H, et al. Which is the Better Prognostic Factor for Resected Non-small Cell Lung Cancer: The Number of Metastatic Lymph Nodes or the Currently Used Nodal Stage Classification? *J Thorac Oncol*. 2011;6(2):310-18
 6. Travis WD, Asamura H, et al. International Association for the Study of Lung Cancer/American Thoracic Society/European Respiratory Society. International Multidisciplinary Classification of Lung Adenocarcinoma. *J Thorac Oncol*. 2011;6(2):244-85
 7. Suzuki K, Asamura H, et al. On behalf of the Japan Lung Cancer Surgical Study Group (JCOG LCSSG). A Prospective Radiological Study of Thin-Section Computed Tomography to Predict Pathological Noninvasiveness in Peripheral Clinical IA Lung Cancer (Japan Clinical Oncology Group 0201). *J Thorac Oncol*. 2011;6(4):751-56
 8. Noro R, Asamura H, et al. Amplification of the ACTN4 gene in stage 1 adenocarcinoma of the lung. *J Thorac Oncol*. 2011;6(6):S959
 9. Kakinuma R, Asamura H, et al. Ground-glass nodules detected by CT Lung cancer screening: results of an evaluation of progression during a 5-year follow-up period. *J Thorac Oncol*. 2011;6(6):S1385
 10. Tochigi N, Asamura H, et al. Malignant pulmonary epithelioid hemangioendothelioma with hilar lymph node metastasis. *Ann Diagn Pathol* 2011;15(3):207-12
 11. Sawabata N, Asamura H, et al. for the Japanese Joint Committee for Lung Cancer Registration. Japanese Lung Cancer Registry Study of 11,663 Surgical Cases in 2004: Demographic and Prognosis Changes Over Decade. *J Thorac Oncol*. 2011;6(7):1229-35
 12. Tsuta K, Asamura H, et al. Utility of 10 Immunohistochemical Markers Including Novel Markers (Desmocollin-3, Glypican 3, S100A2, S100A7, and Sox-2) for Differential Diagnosis of Squamous Cell Carcinoma from Adenocarcinoma of the Lung. *J Thorac Oncol*. 2011;6(7):1190-99
 13. Kozu Y, Asamura H, et al. The usefulness of mutation-specific

- antibodies in detecting epidermal growth factor receptor mutations and in predicting response to tyrosine kinase inhibitor therapy in lung adenocarcinoma. *Lung Cancer*. 2011;73(1):45-50
14. Rice DMB, Asamura H, et al. on behalf of the International Association for the Study of Lung Cancer International Staging Committee and the International Mesothelioma Interest Group. Recommendations for Uniform Definitions of Surgical Techniques for Malignant Pleural Mesothelioma: A Consensus Report of the International Association for the Study of Lung Cancer International Staging Committee and the International Mesothelioma Interest Group. *J Thorac Oncol*. 2011;6(8):1304-12
15. Yoshida A, Asamura H, et al. Comprehensive histologic analysis of ALK-Rearranged lung carcinomas. *Am J Surg Pathol*. 2011;35(8):1226-34
16. Asamura H. Surgery after induction chemotherapy or chemoradiotherapy for locally advanced lung cancer: A technical challenge. *J Thorac Oncol*. 2011;6(9):1458-9
17. Yoshida A, Asamura H, et al. Bright-field dual-color chromogenic in situ hybridization for diagnosing echinoderm microtubule-associated protein-like 4-anaplastic lymphoma kinase-positive lung adenocarcinomas. *J Thorac Oncol*. 2011;6(10):1677-86
18. Asamura H. Identity, Similarity, and Difference between Large Cell Neuroendocrine Carcinoma and Small Cell Carcinoma. *J Thorac Oncol*. 2011;6(10):1774
19. Mimae T, Asamura H, et al. Steroid receptor expression in thymomas and thymic carcinomas. *Cancer*. 2011;117(19):4396-4405
- (目片 英治)
1. Khanh DT, Mekata E, Mukaisho KI, Shimizu T, Tatsuta T, Sugihara H, Endo Y, Kurumi Y, Tani T. Myeloid cells positive for CD10 at invasion front can predict poor outcome in stage II colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2011;[Epub ahead of print]
2. Khanh do T, Mekata E, Mukaisho K, Sugihara H, Shimizu T, Shiomi H, Murata S, Naka S, Yamamoto H, Endo Y, Tani T. Prognostic role of CD10⁺ myeloid cells in association with tumor budding at the invasion front of colorectal cancer. *Cancer Sci*. 2011;102(9):1724-33
3. Shimizu T, Mekata E, Murata S, Yamamoto T, Tani T. A case of catheter fracture of a totally implantable access port introduced through the right internal jugular vein. *J Surg Oncol* 2011;103(5):460-1
4. 矢澤武史, 清水智治, 目片英治, 園田寛道, 龍田健, 谷徹 術前診断した S 状結腸間膜窩ヘルニアの 1 例 *日本臨床外科学会雑誌* 2011;72(10):2676-2680
5. 三宅亨, 清水智治, 園田寛道, 目片英治, 村田聡, 谷徹 術前診断に難渋した肺癌小腸転移の 1 例 *日本外科系連合学会誌* 2011;36(5):787-791

6. 清水智治, 龍田健, 山口智弘, 山口剛, 村田聡, 山本寛, 赤堀浩也, 目片英治, 遠藤善裕, 谷徹 悪性疾患に対する化学療法中に発症した穿孔性腹膜炎における予後因子に関する検討 日本腹部救急医学会雑誌 2011;31(3):467-472

(大谷幹伸)

1. 藤本 清秀, 平尾 佳彦, 大橋 靖雄, 柴田 康博, 富士 幸蔵, 辻 秀憲, 清水 信貴, 宮澤 克人, 永田 仁夫, 大谷 幹伸, 古屋 亮兒, 朴 英哲 酢酸クロルマジノン投与による前立腺肥大症患者の血清 PSA 値およびテストステロン値の変動—多施設共同前向き臨床研究 泌尿紀要 2011;57:177-183

(東 尚弘)

1. Machii R, Saika, K, Higashi T, Aoki, A, Hamashima C, and Saito H. Evaluation of feedback interventions for improving the quality assurance of cancer screening in Japan: Study design and report of the baseline survey. Japanese Journal of Clinical Oncology 2012 Feb;42(2):96-104
2. Ono R, Higashi T, Takahashi O, Tokuda Y, Shimbo T, Endo H, Hinohara S, Fukui T, Fukuhara S. Sex differences in the change in health-related quality of life associated with low back pain. Quality of Life Research, 2011 (in press)
3. Higashi T, Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, Izumi N, Ichida T, Kudo M, Ku Y, Sakamoto M, Nakashima O, Matsui O, Matsuyama Y, Sobue T; the Liver Cancer Study Group of Japan.

Demonstration of quality of care measurement using the Japanese liver cancer registry. Hepatol Res. 2011;41(12):1208-1215

4. Ohura T, Ishizaki T, Higashi T, Konishi T, Ishiguro R, Nakanishi K, Shah S, Nakayama T. Reliability and validity tests of an evaluation tool based on the modified Barthel Index. International Journal of Therapy and Rehabilitation. 2011; 18(8) 422-428
5. 東 尚弘, 浅村尚生, 肺癌登録と Quality Indicator 肺癌 2012;52:72-76
6. 東 尚弘: がんの診療の質を測定する Quality Indicator—がん診療の質を改善するために—. medicina 2011;48(13): 2156-2159
7. 東 尚弘, 中村文明, 祖父江友孝: がん診療における Quality Indicator. 医薬ジャーナル 2011,47(9): 89-92
8. 相崎扶友, 田宮菜奈子, 東 尚弘, 柏木聖代: ヘルスサービスリサーチ チャイルドヘルスサービスリサーチ. 日本公衆衛生雑誌 2011;58(3): 202-208

3. 学会発表

(祖父江友孝)

1. Nakamura F, Higashi T, Asamura H, Sobue T, Ohtani M, Mekata E, Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group "Assessing the quality of lung cancer care in community cancer center hospitals in Japan." ASCO annual meeting June 1-5. 2011 Chicago
2. Higashi T, Nakamura F, Mukai H, Sobue T, Mekata E, Ohtani M,

- Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group "Assessing the quality of breast cancer care in cancer center hospitals in Japan." ASCO annual meeting June 1-5. 2011 Chicago
3. Nakamura F, Higashi T, Sobue T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group "Informed Consent of Oral Chemotherapy is Insufficient in Practice" AcademyHealth annual research meeting June 12-14. 2011 Seattle
 4. Nakamura F, Higashi T, Saruki N, Hosokawa T, Takegami M, Nakayama T, Fukuhara S, Sobue T "Quality of Media Report on Public Reporting Program of Cancer Survival in Japan" AcademyHealth annual research meeting June 12-14. 2011 Seattle.
 5. 祖父江友孝 がん医療均てん化指標としての Quality Indicator 第 66 回消化器外科学会パネルディスカッション July 13-15, 2011 名古屋
 6. 長谷川潔 國土典宏、東 尚弘、祖父江友孝 肝癌診療の客観的評価を目指した Quality Indicator の策定と実測データによる改訂 第 66 回消化器外科学会パネルディスカッション July 13-15, 2011 名古屋
 7. 石黒めぐみ、杉原健一、東 尚弘、中村文明、祖父江友孝 大腸癌における「診療の質指標 (Quality Indicator : QI)」作成・使用の試み 第 66 回消化器外科学会パネルディスカッション July 13-15, 2011 名古屋
 8. 東 尚弘、島田安博、中村文明、岡村健、祖父江友孝 胃癌診療の Quality Indicator の作成・実測の試みと今後 第 66 回消化器外科学会パネルディスカッション July 13-15, 2011 名古屋
 9. Nakamura F, Higashi F, Asamura H, Sobue T, Ohtani M, Mekata E, Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group "Assessing the quality of lung cancer care in community cancer center hospitals in Japan." 第 9 回臨床腫瘍学会学術集会 July 21-23. 2011 横浜
 10. Nakamura F, Higashi T, Mukai H, Sobue T, Mekata E, Ohtani M, Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group "Assessing the quality of breast cancer care in cancer center hospitals in Japan." 第 9 回臨床腫瘍学会学術集会 July 21-23, 2011. 横浜
 11. Nakamura F, Higashi T, Sugihara K, Ishiguro M, Sobue T. Prioritizing quality indicators for colorectal cancer care. International Society for Quality in Healthcare Conference Sep 14-17, 2011. Hong Kong
 12. Ishiguro M, Sugihara K, Higashi T, Sobue T. Japanese Study Group for Postoperative Follow-up of Colorectal Cancer. Evaluation of quality of care for colorectal cancer patients in Japan; an Analysis using the clinical database. Society of Surgical Oncology, Mar. 2012 Orlando.

(國土典宏)

1. 長谷川潔、國土典宏、東尚弘、祖父江友孝 肝がん診療の客観的評価を目指した Quality indicator の策定と実測データによる改訂 第66回日本消化器外科学会総会 パネルディスカッション「消化器がんの Quality Indicator」(座長：杉原健一分担研究者および具英成神戸大教授) 2011/7/14 名古屋
2. 國土典宏 肝癌診療ガイドライン改訂事業と Quality Indicator 県北肝疾患研究会講演 2012.2.14 福島

(杉原健一)

1. Ishiguro M, Suginara K, Higashi T, Sobue T, Japanese Study Group for Postoperative Follow-up of Colorectal Cancer Evaluation of quality of care for colorectal cancer patients in Japan; an Analysis using the clinical database (ポスター発表) The 65th Annual Cancer Symposium of the Society of Surgical Oncology 2012.3.21-24、オランダ
2. 杉原 健一, 具 英成 消化器がん診療の Quality Indicator 第66回消化器外科学会パネルディスカッション July 13-15, 2011 名古屋
3. 石黒めぐみ、東尚弘、祖父江友孝、樋口哲郎、小林宏寿、石川敏昭、加藤俊介、飯田聡、植竹宏之、榎本雅之、杉原健一 研究会データベースを用いた『診療の質指標 (Quality Indicator : QI)』の検討 (口演) 第16回大腸癌術後フォローアップ研究会 2011.1.29、東京
4. 石黒めぐみ、杉原健一、東尚弘、祖父江友孝 研究会データベースを用いた

『診療の質指標 (Quality Indicator :

QI)』の検討(ポスター発表) 第111回日本外科学会総会 2011.5.27-29、東京※(ア) 東日本大震災の影響により誌上発表となった。

5. 石黒めぐみ、杉原健一、東尚弘、祖父江友孝 大腸癌における『診療の質指標 (Quality Indicator : QI)』の作成・使用の試み(パネルディスカッション) 第66回日本消化器外科学会総会 2011.7.14、名古屋

(島田安博)

1. 東 尚弘、島田安博、中村文明、岡村健、祖父江田友孝 消化器がん診療の Quality Indicator PD10-4 胃癌診療の Quality Indicator の作成・実測の試みと今後 第66回日本消化器外科学会総会 2011/7/14 名古屋

(東 尚弘)

1. Nakamura F, Higashi T, Sobue T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group: Informed Consent of Oral Chemotherapy is Insufficient in Practice. AcademyHealth annual research meeting. 2011.6, Seattle, USA.
2. Nakamura F, Higashi T, Saruki N, Hosokawa T, Takegami M, Nakayama T, Fukuhara S, Sobue T: Quality of Media Report on Public Reporting Program of Cancer Survival in Japan. AcademyHealth annual research meeting. 2011.6, Seattle, USA.
3. Nakamura F, Higashi T, Mukai H, Sobue T, Mekata E, Ohtani M, Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group: Assessing

- the quality of lung cancer care in community cancer center hospitals in Japan. 第 9 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011.7, 横浜.
4. Nakamura F, Higashi T, Asamura H, Sobue T, Ohtani M, Mekata E, Higashide S, Shinkai T, Okamura T, National Hospital Organization Quality Indicator Study Group: Assessing the quality of breast cancer care in cancer center hospitals in Japan. 第 9 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011.7, 横浜
 5. 東 尚弘: 胃癌診療の Quality Indicator の作成・実測の試みと今後. 第 66 回日本消化器外科学会総会 パネルディスカッション. 2011.7, 名古屋
 6. Nakamura F, Higashi T, Sugihara K, Ishiguro M, Sobue T: Prioritizing quality indicators for colorectal cancer care. International Society for Quality in Healthcare Conference. 2011.9, Hong Kong, China.
 7. 中村文明, 東尚弘, 中山健夫, 福原俊一, 祖父江友孝: がん生存率新聞報道に対する一般国民の理解の検証. 第 70 回日本公衆衛生学会総会. 2011.10, 秋田.